



アルツハイマー病の創薬研究がもたらす 社会的価値と国の取り組みへの期待

2018年11月

エーザイ株式会社

ニューロロジービジネスグループ

チーフディスカバリーオフィサー

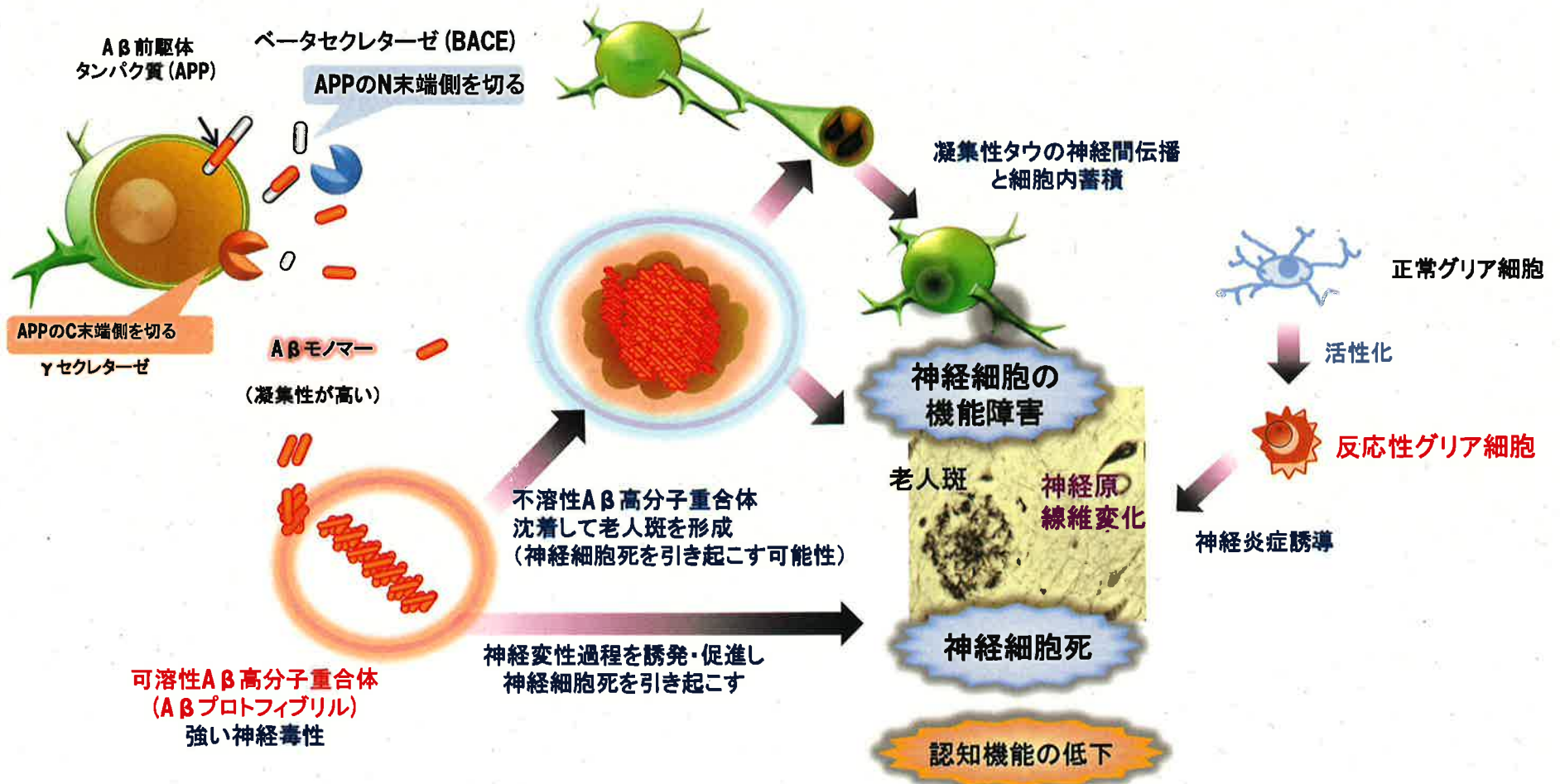
木村 禎治

想定されるアルツハイマー病発症機序



アルツハイマー病の四大病理兆候

- ①老人斑 ②神経原線維変化 ③反応性グリオシス ④神経細胞脱落

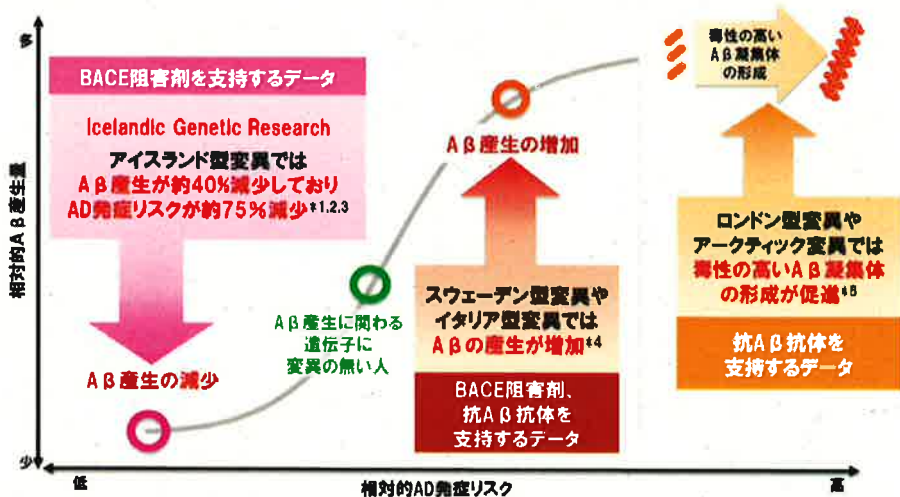


アミロイド仮説が遺伝子研究と治験により実証された

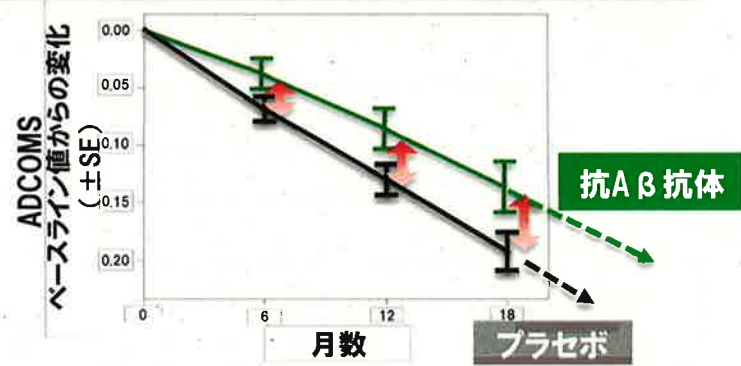


アルツハイマー病疾患修飾型薬剤の登場が迫っている

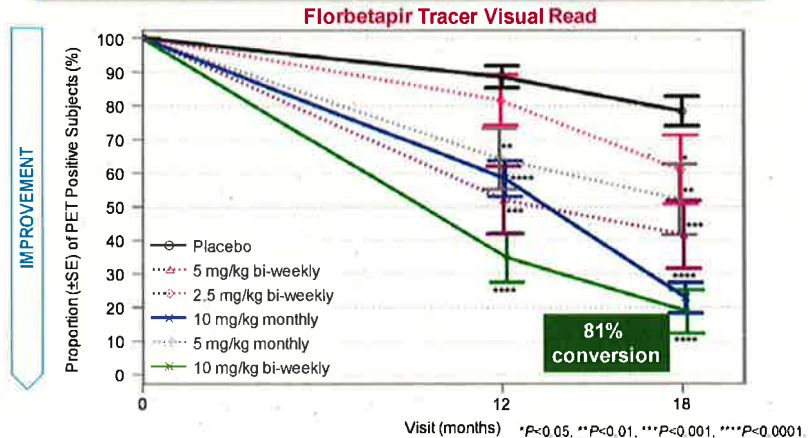
遺伝子研究: 家族性アルツハイマー病の機能的遺伝子解析の結果から、Aβ₄₂の産生を増加させる変異やAβの凝集性を高める変異はADの発症を早め、逆にAβの産生を低下させる変異はADの発症を予防することが明らかになった。
治験: 抗Aβ抗体はアミロイド凝集体を低下させることによって、臨床症状の悪化を遅らせることを示した。



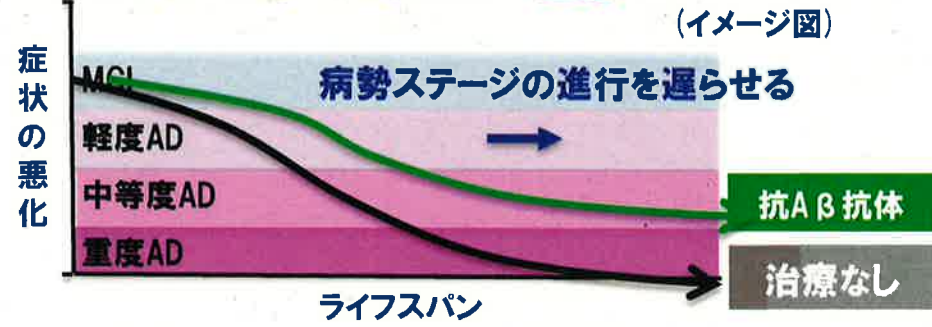
ADCOMS*による臨床症状の進行抑制



PETによる脳内アミロイド凝集体低下



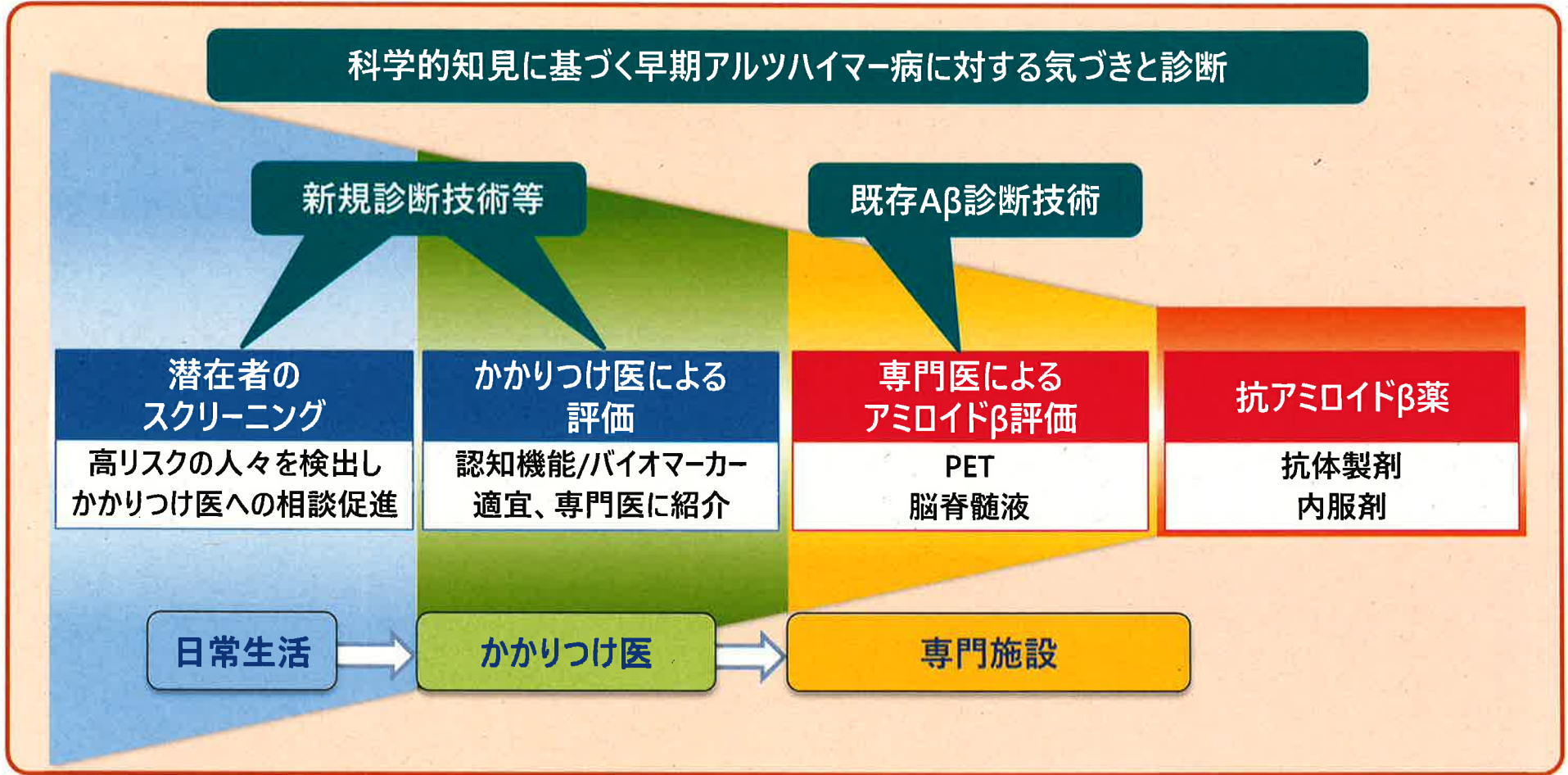
疾患修飾剤は健康寿命を延伸する



- ✓ 抗Aβ抗体はアミロイドPET画像読影診断にて81%の患者様がアミロイド陰性に転換
- ✓ 抗Aβ抗体は用量依存的、統計学的に有意かつ臨床的に意義のある症状の進行抑制(最高用量投与群18カ月 プラセボと比 較し症状の進行をADCOMSで30%抑制 (P=0.034))

*: Alzheimer's Disease Composite Score

アルツハイマー病の先制医療実現に向けた診断フローの構築



先制医療実現への道標

1. 早期ADの疾患認知
2. 健康診断への認知機能検査とバイオマーカー検査の導入
3. PET・CSF保険償還